

事務事業名	白根桃源美術館常設展		所属部局	教育委員会		単位番号	12479									
			所属課室	市立美術館		課長名	秋山弘									
	☐ 実施計画事業		所属担当	美術館総務		担当者名	秋山弘									
基本政策	基本計画体系	V個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目						
政策		22生涯学習ネットワークの整備充実	事業区分	01	一般	1	0	0	4	0	1	0	4	0	0	5
施策		35生涯学習システムの推進		☐ 国の制度による義務的事業			☐ 施設等維持管理事業									
				☐ 県の制度による義務的事業			☐ 補助金交付事業									
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 3 年度)		法令根拠	☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金												
	☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)															
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 美術館収蔵作品の展示を行い、広く市民に絵画等芸術・文化に親しんでもらう機会を提供する事業。		事業費の主な内訳 (22年度)													
			項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)							
			需用費		272											
			役務費		359											
			委託料		1,421											
使用料及び賃借料		105														
				計						2,157						

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	常設展4回、付属展示室貸し出し、美術協会展貸し出し
23年度活動予定	常設展4回、付属展示室貸し出し、美術協会展貸し出し
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
市民(一般住民、学生等) 市を訪れる県内外の観光客	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
美術館に行ってみたいと思うようになる	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
芸術・文化に興味を持ち、いつでも接することができる	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 常設展覧会	回数
イ	
ウ	
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 市民	人数
イ 県内外の観光客	人数
ウ	
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 入館者数	人数
イ	
ウ	
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 美術館にきたことのある市民の割合	%
イ	

(2) 事業費・指標の推移			単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
年間トータルコスト	事業費	国庫支出金	千円							
		県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円	0	0	2,000				
		一般財源	千円	1,655	2,157	583	1,446	0	0	
	事業費計 (A)		千円	1,655	2,157	2,583	1,446	0	0	0
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	0	0	
		延べ業務時間	時間	360	360	360	360	0	0	
		人件費計 (B)	千円	1,606	1,606	1,426	1,426	0	0	0
		(A)+(B)		千円	3,261	3,763	4,009	2,872	0	0
活動指標		回数	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0		
対象指標		人数	72,925.0	72,984.0	73,000.0	73,000.0	73,000.0	73,000.0		
		人数								
成果指標		人数	2,195.0	3,000.0	3,000.0	3,000.0	3,000.0	3,000.0		
上位成果指標		%								

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	昭和56年に当時の白根町が県内の市町村公立美術館の先駆けとして開館
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	企画展予算が削減されたため、常に常設展を行なっている。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	市民等から美術館統合のことについてどうなるのかと言った質問があった。 企画展を行なわないので常に同じものを展示してる印象がある。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	収蔵品数の多い春仙美術館の作品を年に1度展示するなど、展示に工夫をしている。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	21年度より、収蔵品数の多い春仙美術館の作品を年に1度展示するなど、展示に工夫をしている。

事務事業名	白根桃源美術館常設展	所属部	教育委員会	所属課	市立美術館
-------	------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 市民の芸術・文化に対する意識の向上
	②公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 民間に委託するメリット(経費削減等)が少ない
	③維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 市民・県内外の観光客を対象にするのは妥当である
有効性 評価	④成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 もっと積極的にPRをする
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入！) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 白根は付属展示室(ギャラリー)と郷土作家に特化した美術館のため統合はできない ☒ 類似事務事業がない
	⑥休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 美術協会、他の芸術活動等での発表の場がなくなる ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 美術協会、他の芸術活動等での発表の場がなくなる
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 現在も、職員が協力して手作りの案内地図等を作成しさくらんぼ狩りの時期に配る等努力している。
	⑧人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 土日も開館しているため、職員が交互に休みを取っているため困難である
公平性 評価	⑨受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 広報・HP・市内外にポスター等を配布し、周知している

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	入館者の増員を検討する。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☐</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>☐</td> <td>☒</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td>☐</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☐																		
	維持	☐	☒																			
	低下	☐																				
(2) 改革改善案について	(5) 事務事業優先度評価結果																					
① 入館者を増やす。 ② ③	<table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td> <td>⑥</td> </tr> </table>	成果優先度評価結果	⑩	コスト削減優先度評価結果	⑥																	
成果優先度評価結果	⑩																					
コスト削減優先度評価結果	⑥																					
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策																						
① 広報活動を拡大する。 ② ③																						